

忌野清志郎 メルトダウンなど37曲

DVD解説書 2012年12月8日制作 笠井一朗

忌野清志郎と反原発

恥ずかしながら忌野清志郎といえばパンクロックのミュージシャンという程度の認識しかなかった。3.11震災後の原発事故があって、急遽、原発情報をインターネットで検索してゆくうちに、忌野氏の「サマータイムブルース」に辿り着いた。1986年のチェルノブイリ原発事故を受けて作詞したものだが、1988年にリリースされたCD「カバーズ」に納められている。

原発行政に反対すれば仕事が干されるのは、何も科学者や政治家に限った話ではない。東電という巨大スポンサーが出版界や芸能界を席卷しているのは、昨今週刊誌で頻繁に見聞きするようになった。そんな現代日本で忌野はCD「カバーズ」で反戦・反原発を訴える姿勢を貫いた。

また彼はタイマーズのゼリーという人格を併せ持つ。忌野は華々しい化粧の艶やかなロックスター、対するゼリーは土木作業のニッカーズボンと工事用ヘルメット、そして顔を隠すようなサングラスはあたかも全共闘時代の学生運動に身を投じた活動家の容貌である。

その二つを彼は敢えて使い分けたが、驚くことに、そ

の二つは共に一貫して反権力であり反国家主義の姿勢を崩さない確固たる信念で共通項を持つ。ライブでの活動が主体の彼は、芸能界をも跋扈する国家権力にひざまずくことを拒否できる下地がある。

私のつまらぬ講釈はこのぐらにして、彼の音楽を、その主張を、もう一度確認していただきたい。ユーチューブからダウンロードした全37曲を収録したが、DVDをセットするとトップメニューが表示される。原発編／政治編／社会編／ヒットパレード編の4部構成となっている。ある曲を選べば追って連続に曲がかかる。メニュー画面に戻る場合は各機器の取説を参考に呼び出してもらいたい。タイマーズとの表裏一体性を知ってもらいたく、RCサクセッションの彼と取り混ぜて構成した。

トップメニューの背景：パパの歌

原発編：ツルツル/メルトダウン/ラヴミーテンダー/ロングタイムアゴー/サマータイムブルース/原発音頭

政治編：激しい雨/明日なき世界/総理大臣/アイシャルビーリリースト/税/恩赦/ジャンプ/あこがれの北朝鮮/君が代

社会編：あふれる熱い涙/軽薄なジャーナリスト/宗教ロック/世の中が悪くなってゆく/トカレフ/さんざんなめにあっても/偽善者/あきれて物も言えない/赤い原付/警察に行ったのに/いい事ばかりはあり

やしない

ヒットパレード編：雨あがりの夜空に/理解ができない
/トランジスタラジオ/ロックンロールショー/ボス
しけてるぜ/ヒッピーに捧ぐ/ラプソデー/よおこそ/
イマジン/デイドリームビリーバー

追補

彼の一生はウィキペディアに詳述されている。1951 年 4 月 2 日に生まれ、2009 年 5 月 2 日、喉頭癌からの転移による癌性リンパ管症により死去した。彼に大きな影響を与えたアーティストとして、オーティス・レディングとジェームズ・ブラウンを挙げている。実は、彼等二人の音楽を私は 10 代半ばから後半の頃、飽きることなく聞いていた時期があった。メンフィスソウルを代表するオーティスのシャウト、ディスコの帝王といわれたジェームズ・ブラウンの踊りとアトラクションのステージ進行は、忌野のライブの随所に見られる。

日本では「ロック」にカテゴライズされている彼の音楽は、ビートルズにも多大な影響を与えたといわれるリズムアンドブルース（R & B）を拠り所とする。黒人音楽は、J B（ジェームズ・ブラウン）に限らず、その歌詞に人種問題を克服したいとする強い意志を込める曲が多い。忌野の社会性・権力の横暴に立ち向かう反骨精神は、黒人（アフロアメリカン）音楽から授かったに違いない。階級・差別の根底に横たわる構造的な社会問題を、

分かりやすく具体的に我々に訴えかけることの出来る類
い希なエンターテイナーだ。福島原発事故がおきてしま
った現在、もし彼が生きていたなら、反原発運動の現場
で大ブレイクしていただろう。合掌



0142-65-2244 (TEL/FAX)

MGH00343@nifty.com

<http://homepage1.nifty.com/KASAI-CHAPPUIS/>

<http://www.youtube.com/user/kasaichappuis>

笠井一朗

〒 052-0115 北海道有珠郡壮瞥町弁景 195 番地